

実践事例（４）

第４・５学年 国語科 ～一人学級を含む複式学級での学習指導の工夫～

１ はじめに

４年生と５年生の複式学級である。４年生は、一人学級である。日頃、同じ学習課題について、友達同士での意見や感想の交流をすることができていない。教師との１対１での関わりとなることが多く、また、５年生は、自分の意見を発表することには意欲的であるが、相手の考えと、自分の考えとを比較したり共感したりしながら聞き取ることは難しい。そこで、以下のような学習指導の工夫を行った。

- (１) 表現の場の設定と工夫
- (２) 自主的な取組を促すための工夫

２ 実践例

(１) 単元名

第４学年	第５学年
読んで考えたことをまとめよう ごんぎつね	作品を自分なりにとらえ、朗読しよう 大造じいさんとガン

(２) 単元目標（評価規準）

第４学年	第５学年
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 場面の移り変わりに注目しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読む。(読む) ○ 叙述に着目して物語を読み、感じたことや考えたことを話そうとする。(関心・意欲・態度) ○ 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。(言語) 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をするとともに、優れた叙述について自分の考えをまとめる。(読む) ○ 文章から読み取ったこと、自分なりに感じたことを基に、朗読しようとする。(関心・意欲・態度) ○ 書いたものの表現の効果などについて確かめたり工夫したりすることができる。(言語)

(３) 単元の指導計画

第４学年(全１２時間)		第５学年(全８時間)	
時間	学習内容	時間	学習内容
一次	<ul style="list-style-type: none"> ① 作品を比べるという学習課題について理解する。 ② 範読を聞き、初発の感想を書いて発表し、学習の見通しをもつ。 		
二次 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ③～⑧場面ごとに読み、ごんと兵十の行動や気持ちを整理して、ごんと兵十の人物像や関係について、考える。 ⑨ ごんと兵十の行動や気持ちを整理して、感想を１００字程度でまとめ発表する。(本時) 	一次	① 気に入った場面を朗読するという学習課題を理解するとともに、朗読例を聞いて学習の見通しをもつ。
		二次 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ② 心情を場面ごとに書き出して整理する。 ③ 「情景」について理解し、１の場面での大造じいさんの残雪に対する見方の変化を読み取る。 ④ ２・３の場面での大造じいさんの残雪に対する見方の変化を読み取る。 ⑤ ４の場面での大造じいさんの心情を読み取る。(本時) ⑥ 全体を通して大造じいさんの人物像をまとめる。
三次	<ul style="list-style-type: none"> ⑩ 自分が選んだ他の作品の登場人物の性格や行動、気持ちなどをまとめる。 ⑪ 作品を読み比べて思ったことや考えたことをまとめる。 ⑫ まとめたことを発表する。 	三次	<ul style="list-style-type: none"> ⑦ 朗読の工夫等を考える。 ⑧ 「朗読」を発表し合い、感想を伝え合う。

(4) 本時の指導

第4学年			第5学年		
(1) ねらい ○ 6の場面を読み、ごんと兵十の気持ちの変化や関係の変化について捉え、感じたことや考えたことをまとめる。			(1) ねらい ○ 4の場面について、大造じいさんの気持ちに寄り添って書かれた表現、情景、1～3の場面で読み取ったことを手がかりにして、大造じいさんの心情の変化を読み取り、自分の考えを深める。		
(2) 準備物 ワークシート			(2) 準備物 電子黒板、パソコン、ワークシート		
(3) 展開			(3) 展開		
第4学年			第5学年		
○ 指導上の留意点 ◎ 評価	学習活動	わたり	学習活動	○ 指導上の留意点 ◎ 評価	
○ 学習の進め方を知らせ、見通しをもたせる。	1 本時のめあてを確認する。	5	5	1 前時までの学習を想起し、本時のめあてを確認する。	
6の場面を読んで、ごんと兵十の気持ちを考えよう。				4の場面の、大造じいさんの残雪に対する気持ちの変化を読み取ろう。	
○ めあてを考えながら音読するよう促す。 ○ これまでの学習と同様に、場面や人物の行動、気持ちをまとめさせる。 ○ 6の場面は、今までと異なり、兵十の行動と気持ちが、会話文によって書かれていることに気付かせる。	2 6の場面を音読した後、ごんと兵十の行動や気持ちが分かる叙述に線を引き、ごんと兵十の気持ちについて考え、ワークシートにまとめる。	15	15	2 4の場面を音読した後、大造じいさんの心情が分かる部分に線を引き、発表する。	
◎ 6の場面から、ごんを撃つまでの兵十の気持ちや、ごんを撃ったときの気持ち、倒れているごんの気持ちを想像して読み取っている。(発表、ワークシート)	3 ごんと兵十の行動や気持ちについて考えたことを発表する。	15	15	○ 学習課題を考えながら音読するよう促す。 ○ 大造じいさんの心情が表れた情景について取り上げ、心情を読み取らせる。 ◎ 大造じいさんに寄り添って書かれた表現を基に、大造じいさんの心情の変化を捉えているか。(発表、ワークシート)	
				○ 見方が変わった理由(根拠)についても発表できるように促す。 ○ 1の場面と4の場面で出てくる言葉の違いを想起させ、見方が変わったことを押さえる。	
				3 これまで読み取ってきた大造じいさんの心情を振り返り、残雪への見方が大きく変わった場面について考えたことを発表し合う。	

<p>○ 初読の感想と学習後の感想を比べさせ、学習による自分の考えの深まりを実感させる。</p> <p>◎ 根拠を明らかにして感想を発表し、5年生との感じ方の違いに気付く。(発表、ワークシート)</p>	<p>4 感想を100字程度にまとめて書き、発表する。</p>	<p>8</p>	<p>8</p>	<p>4 大造じいさんの人物像についてワークシートにまとめて発表し合う。</p>	<p>○ 大造じいさんの言葉や行動や情景描写から心情や人物像を読み取らせる。</p> <p>○ 4年生の発表に対して、5年生に感想を伝えさせる。</p> <p>◎ 文章中の表現をもとに大造じいさんの人物像をまとめ、自分の考えを深めている。(発表、ワークシート)</p>
<p>○ 次時への見通しをもつことで学習意欲を継続させる。</p>	<p>5 学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>5 学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>	<p>○ 次時への見通しをもつことで学習意欲を継続させる。</p>

3 考察

(1) 表現の場の設定と工夫

第4学年の児童は、入学したときから一人である。また、すぐ下の学年に入学者がいなかったため、2年生の時は、単級で一人という経験をしている。複式学級の際は、上の学年と行っている。現在は、5年生6名との複式学級である。一人で学習することが多くなりがちだが、様々な活動で意見交換等ができる場を設定することを心掛けた。

手立てとして、今回のような意見を伝え合う場面では、主に5年生に協力してもらい、自分の考えを伝え、感想やアドバイスをもらうようにした。また、学習内容や目的に応じて、校長・教頭・養護教諭等、他の教職員に伝える場を設定したり、他学年の協力を得たりして行った。その際、感想やアドバイス等を返してもらうようにした。

これらの取組により、少しずつではあるが、他者との考え方や捉え方の相違を意識した発表について考えるようになっていく。



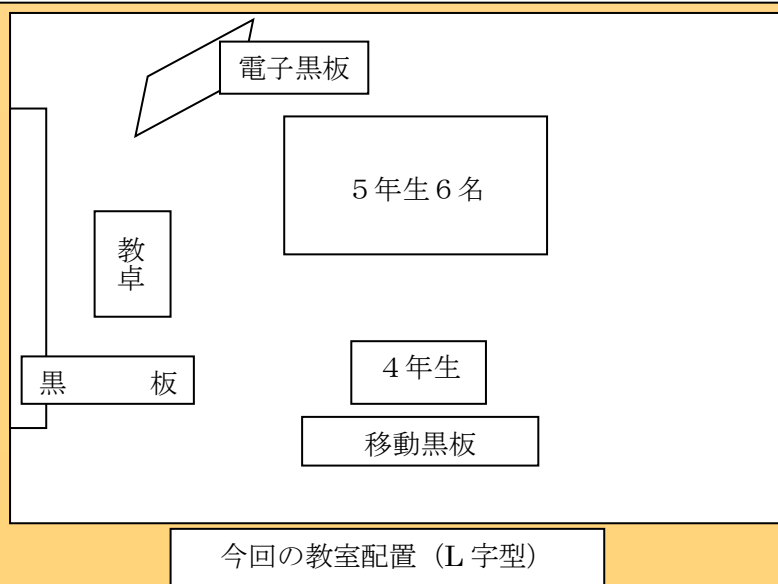
児童への学習課題の説明



他学年の児童への自分の考えの説明



他の教師への自分の考えの発表



第5学年の児童は6名であり、ペア学習、3人でのグループ活動、6人でのグループ活動等、内容に応じて様々な形態で学習を行っており、その都度学習リーダーも変わっている。今回は、より多くの意見を聞き比べることができるよう、6名でのグループ活動を行った。発表者は、電子黒板を使用し、自分の考えを根拠を明らかにしながら説明し、聞き手は、電子黒板に書き込まれる内容と意見を聞きながら自分の考えと比較し、自分の考えを深めることができた。教師は、机の配置をL字型にすることで、4年生に直接指導を行っていても、電子黒板の内容を見て、5年生の活動を把握することができた。



5年生：学習リーダーを中心としたグループ学習

(2) 自主的な取組を促すための工夫

4年生の学習活動の流れ

- ① 学習の課題、本時の流れの説明
 - ② 音読（6の場面）→気持ちが分かる所に線を引く。→ワークシートにまとめる。
 - ③ 発表
 - ④ 感想を書く。→発表
 - ⑤ 振り返る。
- ※ 丸数字は直接指導

5年生の学習活動の流れ

- ① 学習の課題、本時の流れの説明
 - ② 音読（4の場面）→気持ちが分かる所に線を引く。→発表
 - ③ グループで話し合う。
 - ④ ワークシートにまとめる。→発表
 - ⑤ 振り返る。
- ※ 丸数字は直接指導

①により、児童自身が1時間の見通しをもって意欲的に学習に取り組むことができた。

4年生の2では、本時の学習課題や一単位時間の流れが分かるワークシートを使用することで、児童自身で学習を進めることができた。

5年生の3はリーダーを輪番制にした。その結果、全員が話し合いの進め方を理解し、児童たちだけでグループ学習に取り組めるようになった。

4 おわりに

今回の授業では、各学年が、自分たちで学習を進めていくことができるよう、学習の流れや学習内容が分かるようなワークシートを活用した。その結果、学習が進むにつれ、内容に沿って児童自身で学習を進めることができるようになった。特に、5年生は、リーダーがワークシートに書かれている流れに沿って、スムーズな司会を行うことができ、読みを深め合う時間の確保にもつながった。4年生は、学習して感じたことを5年生や教職員に聞いてもらい、感想やアドバイスを述べてもらうことで、自分との感じ方に違いのあることに気付くことができた。

本校では、今後も複式学級が続き、一人学級の学年も存在する。グループ学習でのリーダーの育成など、教師と直接関われない際に、自分たちで学び合う力を身に付けさせるようにしたい。今後も、少人数のよさを生かした、きめ細やかな指導を続けることや、他学年や他校との交流を通して、互いの思いを交流する場の設定を行っていきたい。